

日常生活動作(ADL)調査票の記入方法

「ご本人様が現在行える動作・内容について、当てはまる箇所に“○”をご記入ください。」

有・無 について

有 :よく有る状態。だいたい、1週間に1回以上有る場合。

無 :ほとんど無い状態。過去1ヶ月の間に1回も無い場合。

それ以外 :備考欄に詳細を記入。

レベル(自立・一部介助・全介助)について

自立 :セッティング(用意すれば)・声かけなど行えば、だいたいご自分で行える場合。

☆一部介助 :ご自分でも行なえる部分はあるが見守りや直接介助が必要な場合。

全介助 :その動作に対し全面的に介助が必要な場合。

☆ 一部介助に当てはまる場合は、備考欄に必要な介助内容をご記入ください。

例) 食事・多少食べこぼしがあっても召し上がる動作が可能であれば自立。
・時間がないので介助してしまうがゆっくりでもご自分で召し上げられる場合は自立。
・一気に召し上がりむせてしまうので少しずつ分けて提供する場合は一部介助。

更衣・準備しておけば着替えられる場合は自立。

・着る順番がちぐはぐで一つずつ手渡しする場合は一部介助。

内容について

該当する場合は()内の空欄にもご記入ください。その他気になる点などございましたら空欄や備考欄にご記入ください。

食事 :『粥』は、全粥、3分・5分粥などを含みます。詳細は備考欄にご記入ください。

:『一口大』は食べやすい大きさにほぐしたり、一口大にカットする。『ミジン』は細かいみじん切りです。その他の工夫などは、備考欄にご記入ください。

:『食欲』は、ときどき・無の場合、普段どのくらいの量を召し上げられるのか全体の『何割』くらいとご記入ください。

入浴 :『中間浴』は、リフト浴やチェア浴・シャワー浴と呼ばれる中間的な入浴方法です。詳細や工夫は備考欄にご記入ください。

意思疎通について

言葉による会話が可能であれば『普通』。会話が工夫が必要であれば『困難』で具体的な様子・方法をお書きください。

困難の例) ・言語障害があり、筆談による会話が必要な場合。“言語障害あり。会話は筆談。”
・認知症による場合。“その場の受け答えのみ”“認知症重度の為、疎通困難”

行動について

当てはまる行動がある、又はそれ以外の行動がある場合は、具体的な様子にご記入ください。

不潔行為 :オムツはずしや便をさわる行為。放尿や放便も含まれます。

昼夜逆転 :昼間寝ていて夜起きている逆転傾向の状態。夜間不眠も含まれます。

異食 :食べられないものを口に入れる行為。

※ その他、お気づきの点などございましたらご記入ください。